



2019年3月20日

アセアン域内の現地通貨利用拡大～タイパーツ～

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 研究員 竹山 淑乃

昨年は多くの新興国において、米利上げの継続や政情不安により、資金流出に伴う通貨への下落圧力が強まり、改めて、新興国の米ドルに依存する体質が浮き彫りとなった。こうした中でも、アセアン（東南アジア諸国連合）諸国は、対外的なショックに対する耐性を強化していたため、アジア通貨危機のような事態に陥ることはなかったが、対米ドルでの為替変動リスクには直面した。

このため、アセアン諸国では、各国における構造改革の継続によりファンダメンタルズを強化するとともに、域内での通貨や金融安定化の取り組みが重要視されており、その一例としてアセアン域内の貿易取引における現地通貨の利用拡大が挙げられる。

タイは、国際的な貿易・金融取引における決済通貨の大半が米ドルであるが、アセアン域内において、現地通貨であるタイパーツ（以下、パーツ）建ての貿易取引も拡大している。タイ中央銀行（以下、タイ中銀）によると、タイからアセアン向け輸出の米ドル建ての割合が、2000年時点の90%以上から2018年には70%近くまで低下している（図表1）。一方、タイからアセアン向け輸出のパーツ建て割合は、2000年時点の5%台から2018年には25%近くまで上昇している。同様にタイのアセアンからの輸入についても、米ドル建ての割合が減少しているのに対し、パーツ建ての割合が増加している（図表2）。特に、2018年のタイとカンボジア、ラオス、ミャンマー各国（以下、CLM）との輸出入の通貨別シェアは、パーツ建てが半分近くを占めている（図表3）。

このような背景として、タイと隣接しているCLMとの間でモノや人の流れが活性化していることが影響している。タイ進出企業では、労働力確保やコスト削減等を目的に、CLMの国境付近にある経済特区（SEZ）に製造拠点の一部を移転する「タイプラスワン」の動きが広がっている。加えて、CLM諸国は2018年のアセアン域内における関税の撤廃により、タイとのさらなる貿易取引の増加が見込まれており、為替変動リスクを軽減するために、パーツ建て決済がより拡大するものと考えられる。

タイは、CLMだけでなく、マレーシアやインドネシアとも現地通貨決済の利用に取り組んでいる。2017年にタイ中銀は、マレーシア中銀、インドネシア中銀と共に、現地通貨決済のフレームワーク（LCSF）を発表し、それぞれの国の指定された銀行間における現地通貨の利用規制を緩和している。

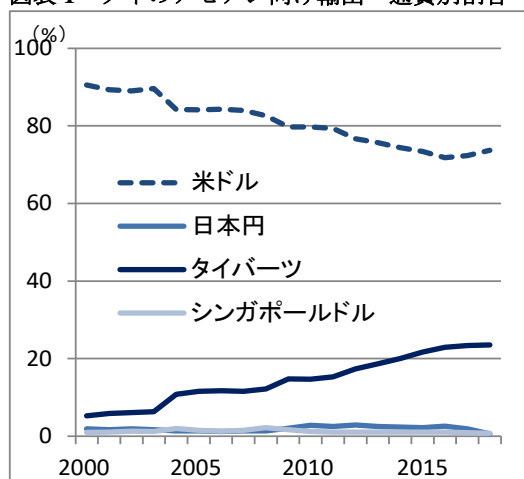
日本政府は、このようなタイ政府のアセアン域内におけるパーツ建て決済の拡大を支援すると共に、パーツの安定化のための施策を推進している。2018年に日本銀行とタイ中央銀行は、従来の通貨スワップ協定の交換通貨として米ドルに加え、円も取り扱えるように制度を拡充した。また、2017年に円とパーツの直接交換市場を創設¹し、2018年には日本の財務省とタイ中央銀行が「円・パーツの直接交換拡大」に関する覚書を締結している。円とパーツの直接交換が可能となった日系企業は、為替手数料が軽減されるだけでなく、途中で米ドルとの交換を省くことで、米国の金融市場の影響を受け難くする事ができる。

さらに、ASEAN+3 マクロ経済リサーチオフィス（AMRO）も東アジア地域の金融セーフティネットとして立ち上げたチェンマイ・イニシアティブのマルチ化契約（CMIM）²における現地通貨の使用方法について検討を始めている³。

今後もアジア域内での米ドルを介さない現地通貨の利用促進により、アジアの金融市場の安定化につながる事が期待される。

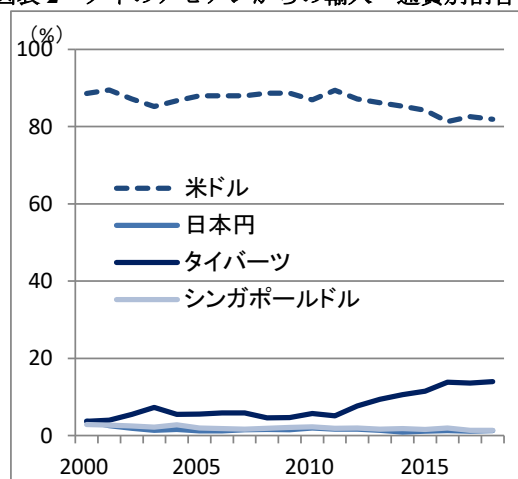
以上

図表1 タイのアセアン向け輸出 通貨別割合



出典:タイ中銀

図表2 タイのアセアンからの輸入 通貨別割合



出典:タイ中銀

図表3 2018年 タイとアセアン諸国のタイパーツ建て輸出入の割合 (%)

	ブルネイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	カンボジア	ラオス	ミャンマー	ベトナム
タイの輸出	14.5	18.8	14.9	23.7	5.0	32.1	65.7	49.4	19.4
タイの輸入	0.8	9.4	8.6	16.2	6.5	40.1	45.8	9.4	28.0

出典:タイ中銀

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

¹ 円とパーツを交換する場合、円から米ドルと米ドルからパーツの2段階の為替取引をするが、直接円からパーツへ交換できる市場を開設。

² Chiang Mai Initiative Multilateralisation。外貨準備を使った短期的な外貨資金の融通を行う通貨スワップの意思決定プロセスを共通化した多国間の取極。日中韓およびアセアン諸国が参加。

³ 2019年1月にAMROはレポート Local Currency Contribution to the CMIM を発表している。